



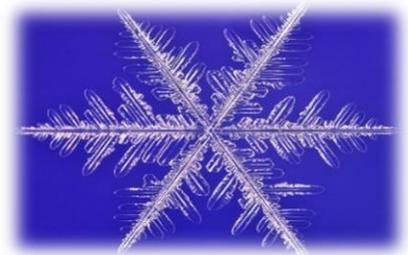
岩五だより



令和7年1月14日

「3学期スタートします」

新年を迎え、8日から小岩五中に生徒の元気な笑顔が戻り、3学期を無事にスタートすることができました。保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



さて本年最初の学期始業式でお話したこととその内容の一部をご紹介します。

まず、昨年末から年始にかけて、江戸川臨海地域において火災が多く発生いたしました。本校関係者の方が直接被災されたとの情報はありますが、ご親戚の方やお知り合いの友人・知人関係の方がいらっしゃるかもしれません。心より、お見舞い申し上げます。また、空気が乾燥し、風が強いこの季節は、特に火の元の確認や取扱いに、くれぐれも注意をしなければ大惨事になることもあります。火を出さないことが最重要であるとともに、発見したときの初期の消火がとても大切です。中学生である皆さんの生活において、意識を高めていってほしいと思います。

次に、今年の干支十干について話しました。

2025年 令和7年は、乙巳（きのとみ）です。巳年（みどし）は、新しい自分に生まれ変わることや新しい自分に出会うことを連想させます（古いものから新しいものへと脱皮するヘビの特性からという説など諸説あります）。この縁起の良い巳年（みどし）にさらに挑戦する心でより良い小岩五中を目指しましょう。より良き未来をここに全員で協力して創っていききたいと思います。

ここからは、時間の関係で、話せなかったことを記したいと思います。

この冬休み、雪に接する機会があり、雪の結晶を見ることができました。そこで感じたことをお話しします。雪は、「天から授かる芸術」とも言われます。上空の気温や湿度などの環境の違いによって、結晶の形が変わるため、雪の結晶には同じ形のものが二つとして存在しません。一つひとつがオリジナルです。天空にある小さな氷の結晶（氷晶）が水蒸気を吸収しながら個性的に大きく膨らみ、きれいな雪の結晶へと成長していきます。生徒の皆さんを雪の結晶に例えるとすると、皆さんは水蒸気の代わりに学習や学校行事、部活動などの様々な今しかできない経験を通して、大きく成長していきます。ぜひ、一人ひとりが世界に一つだけの自分らしく輝く結晶のようになってもらいたいです。苦しいことや投げ出したくなること等があったときに、雪の結晶のように自分を大きく成長させる経験だと思える人でいてほしいと私は思います。

今年度も残すところ3ヶ月となりました。この時期は「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」とよくいわれ、油断すると慌ただしく過ぎてしまいます。皆さんにとっては1年間のまとめや進級・進学準備を行う大切な時期です。4月からの新しいステージでよりよいスタートが切れるように、教職員一同、全力で小岩五中の子どもたちを応援してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、本年も引き続き小岩五中の教育活動に理解とご協力を賜りますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

江戸川区立小岩第五中学校
校長 前本 大智